

雷に迫る 研究者



永田 翔一(ながた しょういち)
1987年東京都生まれ。05年、栃木県宇都宮東高等学校卒業。
09年、富山大学理学部地球科学科卒業。
現在、富山大学大学院理工学教育部地球科学専攻地殻構造学分野酒井研究室所属。
趣味は野球、フットサル、読書、サッカー観戦。

ピカッ！ゴロゴロゴロ……
黒雲に覆われた空に響く、雷の落ちる音。
子供の頃はよく「おへそをとられる」と脅されたものである。

そのすさまじい音に恥じないほど、雷は強力なエネルギーを有している。
それは、時にものを破壊し、人も殺してしまうほどだ。
それを知ってか、雷は昔から恐れられてきた。
神の力の如く地上に落ち、災害をもたらす雷には現在も未知な部分が多い。

今日は、そんな雷について研究を続けている永田翔一さんに話を伺った。

雷の「行方」を追う

雷は上空から落ちてきて、我々を恐怖にさらす。しかし、一度地面に落ちた雷はどこへ行くのだろうか。ここが永田さんの研究テーマだ。雷は発生メカニズムや落雷の挙動など未だに解明されていない部分が多い自然災害の一つだ。もちろん地面に落ちた後の大地内の挙動もあまり知られていない。

研究手法としては、工学部の実験装置により発生させた放電を大地へ送る。放電を行う付近の地中には、磁化のない状態の試料を埋めておく。放電を行った後、この試料にどのように残留磁化が現れているかを測定し、雷の大地内の挙動を調べているのである。

卒業研究で雷は地面に落ちた後、大地内を3方向に分かれて進むことが分かった。しかし、まだまだ不明瞭なことだらけだ。落雷電流が土中でどのように振舞うかは、今後研究を重ねる必要があり、永田さんは現在も雷研究に励んでいる。



鋭い閃光と大きな音によって恐怖や不安感を与える雷だが、正しく身を守ることでその恐ろしさは半減するかもしれない。雷を恐れ、雷に興味を持ち、雷を追いかけて、雷から人を守りたいと考える永田さんならではのメッセージではないだろうか。

どうして雷なのか？

「小さい頃からずっと、今でも雷のあの音は苦手ですね。」

永田さんは親族を雷によって失った。雷の恐ろしさは十分知っている。そんな彼がなぜ、雷の研究に携わっているのだろうか？

出身である栃木県では、二日に一度の頻度で夕立ちがあったそう。怖いながらも、急激に変化していく天候に、彼は次第に興味を持つようになる。高校時代も部活動に励む傍らで天候を気に掛ける毎日だったそう。天候について研究したい、という思いを抱いて大学に進学し、雷について研究している酒井教授と出会う。様々な雷に関するエピソードが繋がって、この出会いを引き付けたのかもしれない。

「局所的な、急激な天候の変化って言うのは、研究があまり盛んではないんです。

自分が一番やりたかったことに近かったのが、この雷の研究でした。」

雷の原因究明を行うことによって雷の被害をなくし、人を守るために永田さんは研究を重ねている。

雷を恐れる君へ

インタビューの最後に、「雷を怖いと考えている人たちにメッセージをいただけませんか。」

とお願いをした。すると永田さんは、「両足を揃えてしゃがむように座る姿勢が一番安全だよ。」と言って、私たちの前で実際にポーズをとってくれた。その他にも、「木の下は危険だから絶対に近づかないこと」「車の中は安全だから車に逃げること」など、身の守り方を熱心に指導してくださった。

(チームサンダーバード)